

## 大阪府摂津方言の原因・理由表現

高木 千恵

### (1)はじめに

ここでは、筆者自身の内省をもとに、大阪府北部で話されている摂津方言の原因・理由表現について報告する。伝統的な摂津方言では、原因・理由を表す形式としてヨッテ（二）、サカイ（二）が使われるが、筆者自身は、家族や友人とのカジュアルな場面においてもそれらを使用することがなく、代わりに、カラ、ンデ、シなどを使用している。シは、もともとは並列を表す助詞だが、原因・理由表現としても使用されている。京都市方言（船木報告参照）のシの使用と比較してみると、筆者自身のシの適用範囲は京都市方言のそれよりも狭いようである。

接続詞には「指示詞＋断定辞＋接続助詞」という構造のソヤカラ・セヤカラのほか、標準語と同形式のダカラを使用している。ただし意識の上では、標準語形を取り込んだというよりは、使用形式がたまたま標準語と同形である、という把握のしかたである。

### (2)調査の概要

筆者自身の言語的背景について簡単に説明しておく。筆者は1974年に兵庫県神戸市の東灘区で生まれ、1年間のオーストラリア留学（2002年）を除いて、3歳から現在まで大阪府豊能町に住んでいる。神戸市生まれではあるが家族に神戸方言話者はおらず、日常生活における活動範囲ももっぱら大阪府北部を中心としている。それゆえ、母方言は大阪方言であるというのが筆者の認識である。

### (3)文字化について

以下、例文は文節分かち書き・カタカナ表記とし、原因・理由表現形式に下線を付す。接続助詞カラは、話しことばにおいては、rが脱落した形（カー）や、さらに約まった形（カ）によって実現されることも多いが、本文での表記はカラに統一する。同様に、接続助詞ダカラにもダカー・ダーといったバリエーションがあるが、いずれもダカラと表記する。また、「指示詞＋断定辞＋接続助詞」という形態をとる接続助詞ソヤカラ・セヤカラは、セヤカラという表記で統一する。なお、例文の前の×印は筆者が不自然だ（許容できない）と判断したことを表し、？印は使えるかもしれないがやや不自然と考えるものに付す。例文はおおむね「原因・理由表現 調査項目一覧」に拠ったが、一部改変した部分もある。

#### 1 「から」と「ので」の用法

##### 1-1 事態の原因（接続調査を兼ねる）

1-1-1 マイニチ アメ フル {シ／カラ} センタクモン カワケヘンナー。

1-1-2 マイニチ アメヤ {シ／カラ} センタクモン カワケヘンナー。

1-1-3 テンキ エー {シ／カラ} センタクモン ヨー カワクワー。

1-1-4 コノ ヘヤ シズカヤ {シ／カラ} シゴトニ シューチューデキンネン。

1-1-5 キノーノ ヨル ムッチャ アメ フッタ {シ／カラ} カワ ゴースイシテルワ。

1-1-6 コドモヤ {シ／カラ} ワカランカッタ。

注：シとカラは、接続のしかたには違いがないが、意味的にはやや異なっている。並列から派生的に原

因・理由の意味を持つに至っているシに比べ、カラは前件と後件の因果関係をより明示的に示すようである。(例) キノー メッチャ ウンドーシタ {？シ／カラ} キンニクツー ナッタワ。

## 1-2 行為の理由（後件のモダリティ制限の調査を兼ねる）

- 1-2-1 タイチョー ワルイ {シ／カラ} ノミカイ イカンコトニ シタ。  
 1-2-2 タイチョー ワルイ {シ／カラ} キョーワ ノムン ヤメトコ。  
 1-2-3 モー クライ {シ／カラ}, エキマデ イッショニ カエロ。  
 1-2-4 アカチャン ネテル {シ／カラ} シズカニ シーヤ。  
 1-2-5 アカチャン ネテル {シ／カラ} シズカニ シテナ。  
 1-2-6 アメ フル {シ／カラ} カサ モッテイキヤー。

## 1-3 判断の根拠

- 1-3-1a メッチャ ノンダ {シ／カラ}, アシタ ゼッタイ シンドイワ。

注：「原因・理由表現 調査項目一覧」の調査文は「星が出ている {から／ので}、明日もいい天気になるだろう」だが、「星が出ている」という事態が「明日も天気がよい」という断定的な判断を導きうるほどの確実な根拠といいにくいと感じられたため、例文を変更した。次の例文も同様。

- 1-3-1b A：アシタ ゼッタイ シンドイワ。

B：ナンデ？

A：メッチャ ノンダ {シ／カラ}。

注：シ・カラともに許容されるが、根拠の明示という点でカラの方がより適切に感じられる。

- 1-3-2 ヒダリテノ クスリユビニ ユビワ シテル {シ／カラ}, モー ケッコン シテルワ。  
 1-3-3 セキ デルシ ネットッポイ {シ／カラ} カゼ ウツッタンカモシレン。  
 1-3-4 サッキ シンブンハイタツノ オト シタ {シ／カラ} イマ ダイタイ ゴジグライチャウ。

## 1-4 発言・態度の根拠

- 1-4-1 アブナイ {シ／カラ} ココデ アソンダ(ラ) アカン。  
 1-4-2 カゼ ヒータ(ラ) アカン {シ／カラ} チャント キテイキヤー。  
 1-4-3 キョーノ シゴト ゼンブ オワッタ {シ／カラ} モー カエロ。

## 1-5 理由を表さない用法

- 1-5-1 スグ モドッテクル {シ／カラ} ココデ マットッテナ。  
 1-5-2 イッカイデ イー {×シ／カラ} ピラミッド ノボッテミタイワー。  
 1-5-3 オネガイヤ {×シ／カラ} ゴセンエン カシテ。  
 1-5-4 タクシー ヨンダゲル {？シ／カラ} スグ ビョーイン イキ。  
 1-5-5 ツクエノ ウエニ オイタール {×シ／？カラ} サイフ トッテキテクレヘン？

注：この場合は「ツクエノウエニ オイテンネンケド」が適切である。

注：理由を表さない用法でシ・カラがともに許容されるのは 1-5-1 だけである。これは、「すぐ戻ってくる」ことが「ここで待っていてほしい」という発話者の態度（希望）の根拠とも解釈できるためと思われる。たとえば、「コピーシテクル {？シ／カラ} サギョー ツヅケトイテナ（コピーをしてから、作業を続けていてね）」のように従属節部分が主節部分の態度の根拠と考えにくい文では、シの許容度が下がる。

## 1-6 原因・理由節の述語用法（XはYからだ）

1-6-1 A：キブン ワルイ。

B：アンナ アホミタイニ ノム {？シ/カラ} ヤデ。

1-6-2 A：キョーワ デパート コンデルナー。

B：ニチヨービヤ {？シ/カラ} ヤロ。

1-6-3 A：ナンカ タロー ゲンキ ナイナー。

B：シアイ マケタ {？シ/カラ} チャウ？

注：「原因・理由表現 調査項目一覧」の調査文と内容を変更している。1-6-4・1-6-5 も同様。

1-6-4 A：ナンカ タロー ゲンキ ナイナー。

B：シアイ マケタ {？シ/カラ} カナー。

1-6-5 A：ナンカ タロー ゲンキ ナイナー。

B：シアイ マケタ {×シ/カラ} カモナー。

1-6-6 A：ヒッコシシテカラ パソコン チョーシ ワルイネン。

B：アレヤ、 ハコブトキ オトシタ {？シ/カラ} ヤ。

注：述語用法におけるシの使用は、内省では不自然あるいは不適格に感じられる。ただし1-6-5の「×マケタシカモナー」を除けば、実際の会話では使用されているようにも思われる。原因・理由を表すシが、京都市方言の影響を受けて今まさに使用を広げつつあるところなのかもしれない。

## 1-7 従属節内のモダリティ表現

### 1-7-1 伝聞・推定表現など

1-7-1-1 キョー ヨル アメ フル ユーテタ {シ/カラ} ハヨ カエロ。

1-7-1-2 キョー ヨル アメ フルラシー {シ/カラ} ハヨ カエロ。

1-7-1-3 キョー ヨル アメ フリソーヤ {シ/カラ} ハヨ カエロ。

1-7-1-4 ウチノコ ネット アルミタイヤ {シ/カラ} ワタシモ ハヤメニ カエルワ。

1-7-1-5 アメ フルカモシレン {シ/カラ} カサ モッテキタ。

### 1-7-2 推量表現

1-7-2-1 アメ フルヤロ {シ/カラ} カサ モッテイキー。

1-7-2-2 ヤマデワ ソートー ユキ フッタヤロ {シ/カラ} ナダレ シンパイヤナー。

1-7-2-3 マー タイシタ アメニワ ナランヤロ {シ/カラ} モー カサ モッテイカントクワ。

1-7-2-4 ソト サムイヤロ {シ/カラ} イッパイ キテイコー。

1-7-2-5 コノママヤッタ (ラ) アシタモ アメヤロ {シ/カラ} エンソク チューシヤナ。

### 1-7-3 丁寧表現

1-7-3-1 チョット ハナシ アリマス {×シ/カラ/ンデ/ノデ}、 ココニ キテクダサイ。

1-7-3-2 タダイマ カクニンチューデス {×シ/カラ/ンデ/ノデ}、 コチラデ オマチクダサイ。

注：「原因・理由表現 調査項目一覧」の調査文は「危険ですので、かけこみ乗車はやめましょう」だが、定型的な表現で実際の発話場面を想像しにくい例文であるため、変更した。

1-7-3-3 キョーワ ケンコーシンダンガ アリマス {×シ/カラ/ンデ/ノデ}、 チョット ハヤメニ アガラシテイタダイテモ ヨロシードスカ？

注：原因・理由のシは、丁寧体とは共起できない。上記3例において従属節末にマスシ・デスシを使うと、並列節のように感じられてしまう。なお、普通体（「ハナシ アルシ」「カクニンチューヤシ」「ケンコーシンダン アルシ」）であれば、理由表現として成立する。

## 1-8 文末用法

### 1-8-1 倒置

1-8-1-1 チョー（＝チョット） ココデ マットッテ。 スグ モドッテクル {シ／カラ}。

1-8-1-2 チョー ゴセンエン カシテー。 ドヨービマデニ カエス {シ／カラ}。

1-8-1-3 エキマデ ムカエニ キテクレヘンカー。 シチジニ ツク {?シ／?カラ}。

注：理由を表さない用法の場合にはシ・カラともに許容度が落ちる（1-5 参照）。

### 1-8-2 終助詞的用法

1-8-2-1 アトデ モッカイ デンワスル {シ／カラ}。

1-8-2-2 チョー（＝チョット） ワタシ デカケルケド、 オヤツ、 プリン レーゾーコニ ハイッテル {シ／カラ}。

注：接続助詞の後に終助詞をつけて「×ハイッテルシネ・×ハイッテルシナ」とは言わない。「ハイッテルカラネ・ハイッテルカラナ」は使用できる。以下同じ。

1-8-2-3 キョーノコトワ ゼッタイ ワスレヘン {シ／カラ}。

1-8-2-4 オトーサンニ ユー {シ／カラ}。

注：一番自然なのは「オトーサンニ ユータンネン」のように接続助詞を使わない言い方である。

1-8-2-5 ゴジマデ エキマエノ キッサテン オル {シ／カラ}。

1-8-2-6 イマカラ スーパーマデ カイモン イッテクル {?シ／カラ}。

1-8-2-7 ダレカニ シャベッタ（ラ） モー クチ キカン {シ／カラ}。

## 2 「のだから」の用法

### 2-1 「から（ので）」との相違

2-1-1a\_1 ジカン ナイ {シ／カラ} メツチャ イソイダデー。

2-1-1a\_2 ウワ、 ジカン ナイ {シ／カラ} チョ（＝チョット） イソゴ。

2-1-1a\_3 チョー、 ジカン ナイ {シ／カラ} イソギヤー。

2-1-1b\_1 ジカン ナイ {×ネンシ／×ネンカラ} メツチャ イソイダデー。

2-1-1b\_2 ソヤ、 ジカン ナイ {ネンシ／ネンカラ} イソゴ。

2-1-1b\_3 チョー、 ジカン ナイ {ネンシ／ネンカラ} イソギヤー。

2-1-2\_1 テンキ エー {シ／カラ} サンポ イッテン。

2-1-2\_2 テンキ エー {×ネンシ／×ネンカラ} サンポ イッテン。

2-1-3\_1 マイニチ アメ フル {シ／カラ} センタクモン カワケヘン。

2-1-3\_2 マイニチ アメ フル {×ネンシ／×ネンカラ} センタクモン カワケヘン。

2-1-4\_1 キノー ヨル ムツチャ アメ フッタ {シ／カラ} カワ ゴースイシテルワ。

2-1-4\_2 キノー ヨル ムツチャ アメ {×フッテンシ／×フッテンカラ} カワ ゴースイシテルワ。

注：フッテンは「降ったのだ」の意。「昨夜大雨が降ったのだから、そりゃあ川が増水しているのは当然だ」という意味であればフッテンシ・フッテンカラともに使用できる。「キノー ヨル ムツチャ アメ {フッテンシ／フッテンカラ} ソラー カワ ゴースイシテルワ」

## 2-2 意味・用法（接続調査を兼ねる）

### 2-2-1 確かな事実とその当然の結論

2-2-1-1 コンナケ {ガンバッタシ/ガンバッタカラ/ガンバッテンシ/ガンバッテンカラ}  
コンドワ ウマク イクワー。

2-2-1-2 ダイジナ ハナシ シテル {シ/カラ/ネンシ/ネンカラ} コドモワ アッチ イットキ。

注：ルで終わる動詞に「のだ」相当のネンがつく場合には、シテルネン→シテンネンのように撥音化するのが一般的である。以下同じ。

2-2-1-3\_1 [行為の実行を事前に禁ずる] コッチワ シンケンヤ {シ/カラ/ネンシ/ネンカラ}  
カラカワントイテヤー。

2-2-1-3\_2 [すでに行われている行為を制止する・行為が行われたことを非難する] コッチワ シンケンヤ {×シ/×カラ/ネンシ/ネンカラ} カラカワントイテヤー。

注：禁止表現が、まだなされていない行為に対するものか、すでになされた行為に対するものかで各形式に対する許容度は異なる。①「真剣にやるのだからその時はからかったりするなよ」という未実現の行為に対する禁止表現であれば、シ・カラ・ネンシ・ネンカラを使うことができる。②すでになされているような場合に、相手への非難を込めてなされる禁止表現であれば、シ・カラは用いられず、ネンシ・ネンカラだけが許容される。

### 2-2-2 聞き手に関する情報—行動要求・認識要求

2-2-2-1\_1 [前もって忠告するような場合] マダ ワカイ {シ/カラ/ネンシ/ネンカラ}, イッカイ ニカイノ シッパイグライデ クヨクヨ セントキヤ。

2-2-2-1\_2 [くよくよしている相手に向かって] マダ ワカイ {×シ/×カラ/ネンシ/ネンカラ}, イッカイ ニカイノ シッパイグライデ クヨクヨ セントキヤ。

注：禁止表現が、まだなされていない行為に対するものか、すでになされた行為に対するものかで各形式に対する許容度は異なる。①「仮に失敗してもくよくよするなよ」という、未実現の行為に対する禁止表現であれば、シ・カラ・ネンシ・ネンカラを使うことができる。②失敗してくよくよしている相手に向けての禁止表現であれば、シ・カラは用いられず、ネンシ・ネンカラだけが許容される。

2-2-2-2\_1 [前もって忠告するような場合] ジュケンセーヤ {シ/カラ/ネンシ/ネンカラ} モット マジメニ ベンキョーシーヤ。

2-2-2-2\_2 [勉強しようとしないう相手に向かって] ジュケンセーヤ {×シ/×カラ/ネンシ/ネンカラ} モット マジメニ ベンキョーシーヤ。

注：命令表現が、事前忠告的なものか、行為がなされないことに対する非難かによって各形式に対する許容度は異なる。①事前忠告的な命令表現であれば、シ・カラ・ネンシ・ネンカラを使うことができる。②するべきことがなされていないことへの非難を込めた命令表現であれば、シ・カラは用いられず、ネンシ・ネンカラだけが許容される。

2-2-2-3\_1 [忠告として] セッカク リューガク スル {？シ/？カラ/ネンシ/ネンカラ} チャント ベンキョー シテキヤ。

2-2-2-3\_2 [非難として] セッカク リューガク スル {×シ/×カラ/ネンシ/ネンカラ} チャント ベンキョー シテキヤ。

注：「ベンキョーシテキヤ」が忠告的な命令であればシ・カラが許容されるはずのところだが、この場合には不自然に感じられる。ただ、「セッカクノ チャンスヤ {シ/カラ}, チャント ベンキョーシテキヤ」であれば許容できるので、「忠告・非難」という命令表現の違いに加えて、述語の品詞性、

あるいは状態性が関わっている可能性もある。

## 2-2-3 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

2-2-3-1 ジカン マダ ジューブン アル {シ/カラ/ネンシ/ネンカラ} ュックリ シテ  
イッテナ。

2-2-3-2 チャンスワ マダ アル {シ/カラ/ネンシ/ネンカラ} ゲンキ ダシーナ。

2-2-3-3 モー スグ タイーンデキル {シ/?カラ/ネンシ/ネンカラ} アト チョットノ  
ガマンヤン。

注：前節でみたことを考慮すると、2-2-3-1・2-2-3-2 でシ・カラともに許容され得るのは後件が聞き手の利益になるからではなく、未実現の事態を問題にしているからと考えることもできそうである。

## 2-2-4 倒置

2-2-4-1 カラダ キー ツケヤー。 モー ワカイコトナイ {シ/?カラ/ネンシ/ネンカラ}。

2-2-4-2 ジブンデ キメーナ。 モー コドモチャウ {シ/?カラ/ネンシ/ネンカラ}。

2-2-4-3 ソラ シンパイスルワ。 オヤヤ {シ/カラ/ネンシ/ネンカラ}。

注：2-2-4-1・2-2-4-2 でカラが許容しにくいのは、主節の述部が命令形であることと関係している。命令が、未実現の事態に対するものであればカラの許容度は上がる。

## 2-2-5 終助詞的用法

2-2-5-1 ワタシ ゼッタイ アノヒトト ケツコンスル {シ/カラ/×ネンシ/?ネンカラ}。

2-2-5-2 コッチガ アマイ カオ ミセタラ スグ チョーシ ノル {シ/?カラ/×ネンシ/ネンカラ}。

2-2-5-3 アイツ モー ホンマニ サケグセ ワルイ {シ/?カラ/×ネンシ/ネンカラ}。

注：ネンシという形での終助詞的用法は認められない。

## 3 接続詞「だから」の用法

### 3-1 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件が同一の話し手によるもの

3-1-1 サイキン マイニチ アメ フルヤロ。 (ソヤナー) {セヤカラ/ダカラ} センタクモン カワケヘンネン。

3-1-2 モー ハチジ ナルデ。 (シー ハチジ?) ウン, {セヤカラ/ダカラ} ハヨ オキヤ。

3-1-3 スグ モドッテクルワー。 (ア, ソーナン?) ウン, {セヤカラ/ダカラ} チョ (=チョット) ココデ マットッテ。

注：( ) 内は聞き手の発話として想定したもの。なお、1980 年代生まれの若年層の間ではこのような場合にヤカラという接続詞が使われはじめています。

### 3-2 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件の間に話者交替があるもの

#### 3-2-1 相手の発話中の事態Pを受け、それから導かれる帰結Qを述べるもの

3-2-1-1 A: サイキン マイニチ アメ フルナ。

B: ウン, {セヤカラ/ダカラ} センタクモン カワケヘンシ コマルワ。

3-2-1-2 A: キョー アメ フル ユーテタナ。

B: ウン, {セヤカラ/ダカラ} カサ モッテイキ。

注：セヤカラを用いた方が、相手の発話と自分の発話との因果関係を明示的に示しているようなニュアンスが生じる。

### 3-2-2 聞き手に結論を求めるもの

- 3-2-2-1 A：ウーワ、 アメ フッテキタワ。  
 B1：{×セヤカラ／ダカラ} ドーシタン。  
 B2：{×セヤカラ／ダカラ} ナンナン。  
 B3：{×セヤカラ／ダカラ} ？

### 3-2-3 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの

- 3-2-3-1 A：ジコデ デンシャ オクレテルラシーワ。  
 B：アー、 {セヤカラ／ダカラ／ホンデ} ミンナ マダ ケーヘンネヤ。  
 3-2-3-2 {コレヤカラ／？セヤカラ／ダカラ} レンキューニ デカケンノ イヤヤネン。  
 3-2-3-3 {コレヤカラ／？セヤカラ／ダカラ} レンキューニ デカケンノ イヤヤネン。

注：テレビを見ての発言でも、ア系ではなくコ系指示詞を用いる。ソ系への置き換えは不自然。

### 3-2-4 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの

- 3-2-4-1\_1 {セヤカラ／ダカラ} ヤメトキ ユーテン。  
 3-2-4-1\_2 {セヤカラ／ダカラ} ヤメトキ ユータヤロ？  
 3-2-4-1\_3 {セヤカラ／ダカラ} ヤメトキ ユータヤン。  
 3-2-4-2 {セヤカラ／ダカラ} シタ(ラ) アカン ユータヤン。

### 3-3 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの

#### 3-3-1 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

- 3-3-1-1 A：サッキ タノンダ シゴト チヤント ヤッテヤ。  
 B：ウン キョージュニー ヤル。 イマ チョット イソガシーカラ アトデ。  
 A：アシタマデニ ヤッテヤー。  
 B1：イヤ， {セヤカラ／ダカラ} キョージュニー ヤル ユーテルヤン。  
 B2：イヤ， {セヤカラ／ダカラ} キョージュニー ヤルヨ。  
 3-3-1-2 A：キョーナ， タノミタイコト アッテ キテン。  
 B：ナニ？ ユーテミー。  
 A：ンー デモ ユッタラ オコルカモシレン。  
 B1：{？セヤカラ／ダカラ} ユーテミーナ。  
 B2：{セヤカラ／ダカラ} ユーテミ ユーテルヤン。

#### 3-3-2 発話行為間の因果関係がないもの

- 3-3-2-1 A：サッキ タノンダ シゴト ヤッテクレタ？  
 B：エ？ ナンノ コト？  
 A：{×セヤカラ／？ダカラ} アサ タノンダヤン。

注：この場合、接続詞を使わないのがもっとも自然である。何べん言ってもわからない相手にしびれを切らす、といった場面であればダカラの許容度が高くなる。セヤカラを用いると、相手の発話と自分の発話との間に因果関係があるようなニュアンスになってしまう。「モット ハヤク ユツクレタラ ヨカッタノニ」「セヤカラ アサモ タノンダヤン」

3-3-2-2 A：キョー チョード ウマイコト タナカサンニ アッタワ。

B：ドノ タナカサン？

A：{×セヤカラ／？ダカラ} サッキ ユーテタ サンチョーメノ タナカサン。

注：この場合も、直前にさんざんタナカさんの説明をしているという設定であればダカラの許容度が高くなる。

#### 参考文献

榎垣実編（1962）「近畿方言文例抄」『近畿方言の総合的研究』三省堂

奥村三雄（1962）「京都府方言」榎垣実編『近畿方言の総合的研究』三省堂

山本俊治（1962）「大阪府方言」榎垣実編『近畿方言の総合的研究』三省堂